

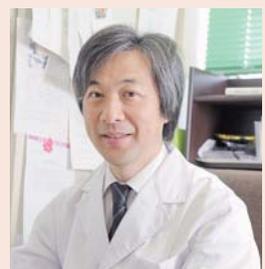


## ごあいさつ

平成26年4月1日付けで医療連携・総合相談センター長に就任いたしました齋藤です。よろしくお願いいたします。

医療連携・総合相談センターは、平成25年4月1日に開設された新しい組織です。その役割は、患者さんからの様々なお声をもとに、医療関連のサービス窓口業務を医療職・事務職の垣根なく一本化して対応したいと考え、医療相談のほか、病院に対するご意見、肝疾患相談センター、がん相談サロン、心理検査・カウンセリング、新患外来予約、セカンドオピニオン外来、退院支援、診療録の開示、栄養管理、栄養指導・相談、給食管理、ファミリーハウスの受付、病院ボランティアのコーディネートなど様々な業務に対応しております。このような事を一つ一つ取り組むことによって温もりの伝わる病院ができあがってくると考えております。

また、今年度は、がん患者さんや家族に対する相談・支援業務を充実・強化するため「がん看護相談室」の開設や質の高い栄養・給食サービスの提供を目的としてNST（栄養サポートチーム）活動の拡大など、さらに当センターの機能強化を図る予定です。多くの皆様に利用可能な医療資源・人材を提供いたしますので、積極的なご利用のほどお願いいたします。



医療連携・  
総合相談センター長  
**齋藤 豪**

## 医療連携・総合相談センター 業務のご案内

当院に通院・入院されている患者さんとその家族の方に治療や入院に伴って起こる社会生活上の問題や心理的問題に関するご相談をお受けしております。また、地域の医療機関と連携し患者さんの受け入れ及び退院に向けた支援を行っております。

### 新患外来診療患者の予約受付

当院では、「患者さんを紹介したいが、どこに申し込んだら良いのかわからない。」「予約無しでは待ち時間が長すぎる。」といった地域の医療機関、患者さんからのご意見をもとに、医療機関からご紹介される患者さんについて新患外来の診療予約を受付けております。

新患外来の診療予約を希望される場合は、当院のホームページにあります専用の書式により予約（FAX受付時間：平日9：00～12：00、13：00～16：00）をお願いします。

なお、**当日の予約、再来※の予約、検査のみの予約、入転院の予約及び入院相談は受け付けておりません**ので、ご注意ください。（入院依頼は主治医から各該当診療科の病棟医長あてにご相談下さい。）

また、訪問看護指示書等の主治医の記載が必要な書類は、医事センター文書受付窓口（内線3204）に照会をお願いします。

※再来とは同じ診療科の受診が1年以内にある場合です。（例. 第1内科での最終受診月がH25年5月で、再度、第1内科をH26年5月中に受診する場合は再来となります。）

#### 【過去3年間の予約件数】

平成23年度	平成24年度	平成25年度
2,898	3,063	3,950

#### 【平成25年度の主な診療科別予約件数】

整形外科 913、眼科 319、産婦人科 312、耳鼻咽喉科 310、第1内科 170

新患外来診療予約のウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000002zmz.html>



## 医療相談

相談係では5名の医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）が中心となり、各種の公費負担医療手続の援助や各種保険医療、福祉制度に関する相談に応じています。また、医療に関する心配事や家族・職場の心配事、経済的・精神的問題についてのご相談にも応じています。

平成25年度の6,642件の相談内容については、医療費や退院後の福祉制度の利用に関する相談が大きな割合を占めています。引き続き、相談員のスキルを高めながら、患者さんの思いを受け止め、信頼される相談窓口を目指していきたいと思っております。

なお、当院の相談部門等における苦情、暴言、暴力行為等に対応するため、平成26年度より医療相談対策専門員を配置しております。

担当 相談係 内線3191・3192

## セカンドオピニオン外来

セカンドオピニオンは、病気の診断や治療方針について他の医師の意見を求めることをいいます。

特定機能病院である当院の専門医が患者さんの治療方針について、ご相談に応じており、平成25年度の相談件数は115件となっています。

当院でのセカンドオピニオンを希望される場合は、当院のホームページで内容をご確認いただき、専用の書式により申込みをお願いします。

※外来受診（検査又は治療）とは異なりますので、ご注意ください。

料金 21,600円（消費税込み、相談は60分以内です。）

セカンドオピニオン外来のウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/guide/mumhv60000002omq.html>

担当 医療連携係 内線5123

## 他医療機関等との医療連携

当院では、円滑な医療連携のため当院で作成した公的機関へ提出済みの文書について、患者さんの了解が確認できる依頼書に基づき、医療機関からの文書照会に応じております。

照会の対象となる書類は次のとおりです。

- ・介護保険申請・更新に伴う「主治医意見書」
- ・身体障害者手帳の申請・更新に伴う「身体障害者診断書・意見書」
- ・特定疾患医療受給者証の申請・更新に伴う「臨床調査個人票」
- ・年金受給者の再認定に伴う「診断書（障害者用）」

照会方法等については、当院のホームページにあります専用の書式により照会をお願いします。

文書照会のウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000005ex3.html>

また、患者さんの意向に沿って、他院への新患外来診療予約又は他院へのセカンドオピニオンの予約を取る事務手続きの代行を行っております。

担当 医療連携係 内線5123

## 退院調整・退院支援

退院支援係に退院調整を担当する看護師3名と社会福祉士1名が平成25年度に配置されて1年が経ちました。

患者さんの抱える退院困難要因を早期から把握して支援を開始するためのスクリーニングシステムも軌道にのり、また、院内外に退院支援係の役割も認知され、平成25年度は792件の退院調整を行いました。平成26年度に入り1カ月間の依頼件数は100を超えてきており、今年度は1,000件を超える見込みです。



【看護師 大谷（左上）、奥山（右上）  
高橋（左下）、社会福祉士 本間（右下）】

患者さんの抱える課題は、身寄りが無い、介護の限界、認知症の合併、貧困等、ますます高度・複雑化し、当院の医療機能を超越する困難さに対して、1事例毎に最善の方法を医療チームで検討しながら支援にあたっています。退院支援部門の組織化も含め院内全体の取組の推進により、平均在院日数は短縮傾向にあります。

また、在宅療養支援の一環として、外来における医療材料の供給体制の標準化、医療移行の説明を患者さんや家族の方にする際にタブレット型端末機を活用し、わかりやすく情報提供する取り組みなど、新たな業務を模索しながら進めています。

ケアマネージャー、訪問看護師、在宅療養支援診療所の医師との退院前カンファレンスも普通の光景になってきました。在宅緩和を希望される患者さんの増加や、外来からかかりつけ医の変更、医療依存度の高い患者さんの訪問看護の導入など、地域の医療機関や在宅ケア機関の方々と、切れ目の無い、きめ細かな連携が必要不可欠となってきております。

今後とも、各機関の方々からの要請にも機動力よく応えられる連携窓口をめざしていきたいと考えておりますので、ご活用いただければと思います。

担当 退院支援係 内線3193・5125・5126・5127

## 栄養管理活動

入院患者さんの治療に適した必要な栄養量を把握し、一人一人を対象に栄養管理計画書を作成するなど栄養状態の評価を行っており、NST（栄養サポートチーム）回診や褥瘡回診にも参加しています。

また、入院・外来患者さんを対象に、医師の依頼により、栄養指導を実施しています。

### 【平成26年度の新たな取組】

- ・糖尿病透析予防指導管理料（外来患者対象）平成26年6月～  
糖尿病腎症第2期以上の患者さんを対象に、専任医師、看護師、管理栄養士からなる透析予防診療チームが連携し、指導管理を行います。
- ・栄養サポートチーム加算（入院患者対象）平成26年8月～（予定）  
栄養障害の状態にある患者さんや入院治療に伴い栄養管理が必要になることが見込まれる患者さんに対し、生活の質の向上、現疾患の治癒促進、感染症をはじめとした合併症の予防などを目的として、栄養管理に係わる専門的知識を有した多職種からなるチームによる診療を行います。

### 【平成25年度の実績】

- ・NSTの活動について

	NST回診	NSTセミナー	栄養管理計画
延人数	1,036	956	3,027

※平成25年10月から、週2回の回診を行っています。

- ・栄養指導について

	入院	外来	集団
延件数	557	196	9

※栄養指導は、栄養指導室のほかベッドサイドでも積極的に行っています。



【栄養管理係スタッフ一同】



【集団栄養指導の様子】

### NST（栄養サポートチーム）について

- ・NST（栄養サポートチーム）とは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士などの多職種から構成された、栄養療法を行う医療チームのことです。
- ・当院では、入院患者さんの栄養状態を評価し、病態に合った栄養を提供するため、NSTによるチーム医療を推進しています。

担当 栄養管理係 内線3153

## がん地域連携クリティカルパス

北海道の医療政策として、がん患者さんにわかりやすく安全で質の高い全道共通の医療を提供するため、胃・大腸・肝・肺・乳がんの5大がんについて、「地域連携クリティカルパス（通称：連携パス）」を作成し、地域の医療連携に活用しています。

当院は、この「連携パス」を用いて、がん診療連携拠点病院と地域の病院や診療所が同じ診療方針で、安心して質の高い医療を提供したいと考えております。

連携医療機関数は平成26年4月現在、73を数え、本格運用が始まった平成26年度の実績は肝がんの5件となっております。

また、連携医療機関との連携強化等のため、平成25年11月には、がんパス等地域連携担当者会議、同年12月には、がん診療学術講演会を開催しました。

今後も、かかりつけ医として連携パスに参加いただける医療機関の増加のため、各種取組を実施していきますので、多くの医療機関に連携パスにご参加いただければ幸いです。

### 【腫瘍診療センター】

センター長	篠村 恭久（消化器・免疫・リウマチ内科学講座教授）
がん診療地域支援室長	加藤 淳二（腫瘍・血液内科学講座教授）
// 副室長	瀧本 理修（腫瘍・血液内科学講座准教授）
// 副室長	水口 徹（消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座准教授）
事務局	
医療連携・総合相談センター	

### 【連携パス種別の連携医療機関数：平成26年4月現在】

胃がん 67、大腸がん 65、肝臓がん 61、肺がん 47、乳がん 44

担当 医療連携係 内線5123

## INFORMATION

### がん看護相談室

地域がん診療連携拠点病院としてがん患者相談体制を強化していくため、平成26年4月から「がん看護専門看護師」と「緩和ケア認定看護師」の各1名が、がんに特化した「がん看護相談室」の開設に向けた準備を進めています。

がん治療を続ける過程では、副作用や痛みなどの症状による身体・気持ち・生活への影響、病気や治療を受けることでの不安など様々な問題が生じます。相談室では、外来でこのような問題を抱えながら治療を継続する患者さんのつらい症状がやわらぐように支援したいと考えています。

相談室では、専門看護師と認定看護師が毎日在室し、医師の指示の下に1日10名前後の患者さんを支援する予定で、10月の開設を目指しております。

開設が決まりましたら、当院のホームページ上でお知らせいたします。



【がん看護専門看護師 小野(左)・  
緩和ケア認定看護師 田中(右)】

担当 主査(がん相談) 内線5116

## 患者サポート

### がん相談サロン

平成25年度より、大学医学部の寄附講座「アイン・ニトリ緩和医療学推進講座」と連携して「がん相談サロン」を運営しています。

平成25年度は延べ807名の方にサロンをご利用いただきました。

利用された方からは、「交流会に参加することで元気をもらえた」、「心が軽くなって救われた」、「どこに相談して良いかわからなかったが、院内に相談できる場所があって安心した」などあり、皆様から好評をいただいております。



【学習会の様子】

平成26年度も引き続き、院内外のがん患者さんやそのご家族を対象に「交流会」、「学習会」などを毎月開催しており、詳細は、医療連携・総合相談センターのスタッフにお尋ねいただくか、講座のホームページ、院内に掲示しているポスター等でご確認いただけます。「仲間と気兼ねなく話せる場所」、「自分の気持ちを吐露する場所」として、どうぞお気軽にご利用ください。

なお、交流会等の参加はもちろん、相談についても当院の患者さんに限らず広くお受けしておりますので、他医療機関の患者さんも、どうぞお気軽にご利用ください。

#### 【平成26年度の開催イベント】

- ・交流会（毎週1回）（場所については、医療連携・総合相談センターにお問い合わせ下さい。）

女性患者さんを対象とした美容関係のイベントなど新たな企画を当院内外で開催している定例行事です。

- ・学習会（毎月1回）（場所については、医療連携・総合相談センターにお問い合わせ下さい。）

当院内外の医師、看護師など専門職の方々を講師に、がんに関する正しい知識や情報を提供します。

- ・個別相談（平日8：45～17：15、電話・来所相談可）電話：011-616-0234（サロン事務局）  
療養や生活に関する心配ごと、社会制度の活用などについて、個別相談に応じています。

がん相談サロンウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/kanwa/salon/>

担当 相談係 内線3191・3192

### 肝疾患相談センター

当院は、平成21年に道から「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受け、肝疾患相談センターを開設しました。

今年度も、肝疾患についての一般的な医療情報の提供等を目的とした「肝臓病教室」（年6回）や患者さんやその家族が抱えている肝疾患に対する悩みや不安を語り合い前向きな姿勢で治療に望んでもらうことができるような交流の場としての「肝臓サロン」、肝疾患に関わる人材育成をおこなう「肝疾患フォーラム」、より多くの方に肝疾患を理解してもらえらるための「市民公開講座」等を地域で開催し、肝疾患の相談体制の充実に取り組んでいます。

平成25年度の相談件数は881件で、主な内容として、

- ・肝疾患に関する一般的な治療や検査方法
- ・食事内容等の療養生活に関すること
- ・公費助成の手続き方法等、医療費に関すること
- ・地域の肝疾患専門医療機関の紹介

等のご相談がありました。

こうした取組を通じ症状が未だ出ていない患者さんに病気に気づいていただき、早期から適切な治療を継続してもらえよう支援していきたいと考えております。

なお、フォーラム等の参加はもちろん、相談についても当院の患者さんに限らず広くお受けしておりますので、他医療機関の患者さんも、どうぞお気軽にご利用ください。



肝疾患相談センター専用電話：011-611-5700 相談開設時間 平日8：45～17：30

# トピックス

神経再生医療科

## 再生医療の治験を実施しています。

### 患者自身の骨髄幹細胞から

札幌医科大学附属病院では、平成25年から脳梗塞、平成26年から脊髄損傷に対して、患者自身の骨髄幹細胞を用いた再生医療の治験を実施しています。

脳梗塞や脊髄損傷は、最新の医療技術でも後遺症が残ることが多い病気です。この治療法では、患者自身の骨髄液から骨髄幹細胞を採取し、専用の細胞培養施設（CPC）において約2週間かけて1万倍に培養し細胞製剤を作成して、静脈内に点滴投与します。患者自身の細胞を使用するため、免疫拒絶反応や感染症の危険性が低く、比較的安全性が高い治療法と考えられています。本治験により後遺症の軽減に有効であること、安全であることを実証することを目指します。

患者さんには、脳梗塞、脊髄損傷いずれも、通常の急性期治療が終了した後、当院に転院していただき、全身検索による適格性の検討、細胞製剤の作成を行います。詳細は、コールセンター、メール、HPにてご確認ください。

また、同封のちらしを貴院に掲示していただければ幸いです。



【神経再生医療科スタッフ一同】

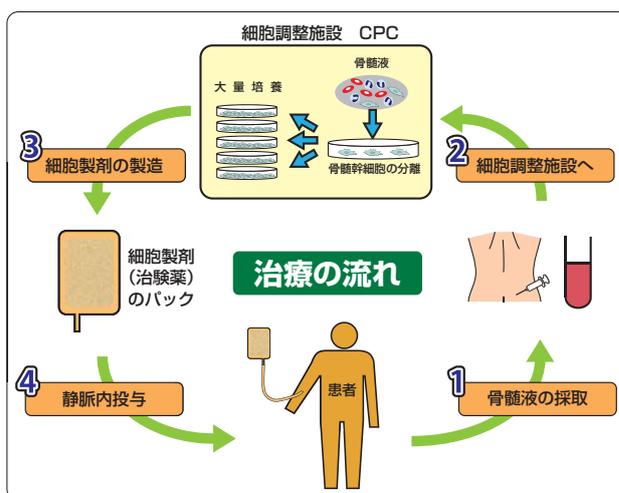
### 参加基準 20～64歳の方

#### 脳梗塞

- ①発症から20日をめぐりに当院に転院できる方
- ②初発のアテローム血栓性脳梗塞
- ③歩行や体を動かす動作には介助が必要である、または常に介護と見守りが必要な方

#### 脊髄損傷

- ①発症から14日以内に当院に転院できる方
- ②損傷部位が頸髄である方



※なお、詳細な適格性の基準があり、参加いただけない場合がありますので、ご了承ください。

### 治験により薬事承認目指して

自己の骨髄幹細胞を培養し、自己の静脈内に投与する「細胞製剤（薬の候補）」を「薬」として薬事承認されることを目指しており、「治験」を実施しています。細胞製剤の薬事承認を目指す「治験」は国内初の試みです。

本治験は、脳梗塞は第3相治験、脊髄損傷は第2相治験にて実施しています。

※治験参加中は、当院に入院している必要があります。

（目安として脳梗塞約5か月、脊髄損傷約7か月）

※治験薬の製造に係る医療費は一切かかりません。

入院料、検査料等については、健康保険が適応されますので、ご加入の健康保険に応じた費用がかかります。また、高額医療費制度を受けることもできます。



治験コールセンター

**0120-265-016**

(平日 9:00~17:00)

ホームページ

<http://web.sapmed.ac.jp/regeneration/>

お問い合わせメール

脳梗塞治験  
[chicken-stroke@sapmed.ac.jp](mailto:chicken-stroke@sapmed.ac.jp)

脊髄損傷治験  
[chicken-sci@sapmed.ac.jp](mailto:chicken-sci@sapmed.ac.jp)

ホームページ  
QRコード



# 各種案内

## ファミリーハウスのご案内



小児慢性特定疾患や他の疾病で、長期入院している患者さんのご家族にご利用いただけますので、どうぞご利用下さい。但し、札幌市内にお住まいの方又は患者さんだけの宿泊は出来ませんのでご注意ください。

居室数は10室で、料金は1室1泊2,000円(消費税込み)、寝具類は別料金がかかります。

満室の場合は、低料金で泊まれる他の施設をご案内しております。

所在地：札幌市中央区南2条西18丁目(当院より徒歩7分)



申込直通電話 011-688-9508

### ■札幌医科大学附属病院の理念■

札幌医科大学附属病院は、患者さまに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献することを目的とします。

### ■札幌医科大学附属病院の基本方針■

- 1 医療サービスの向上を図り、患者さまに安全な医療を提供します。
- 2 患者さまの人権を尊重し、十分な説明と同意のもとに医療を行います。
- 3 国内外に評価される高度な診療や臨床研究を積極的に行います。
- 4 教育を重視し、人間性豊かで信頼される医療人を育成します。
- 5 地域との連携を密にし、地域における医療、保健、福祉を支援します。

### 「医療連携・総合相談センター」ウェブサイト

URL <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/mpc/>



## 札幌医科大学附属病院 医療連携・総合相談センター

札幌市中央区南1条西16丁目 TEL：011-611-2111(代表) FAX：011-621-2233

患者サービス係(内線3188)	医療連携係(内線5121)	栄養管理係(内線3153)
主査(支援)(内線3194)	退院支援係(内線3193)	主査(給食管理)(内線3155)
相談係(内線3189)	主査(がん相談)(内線5116)	